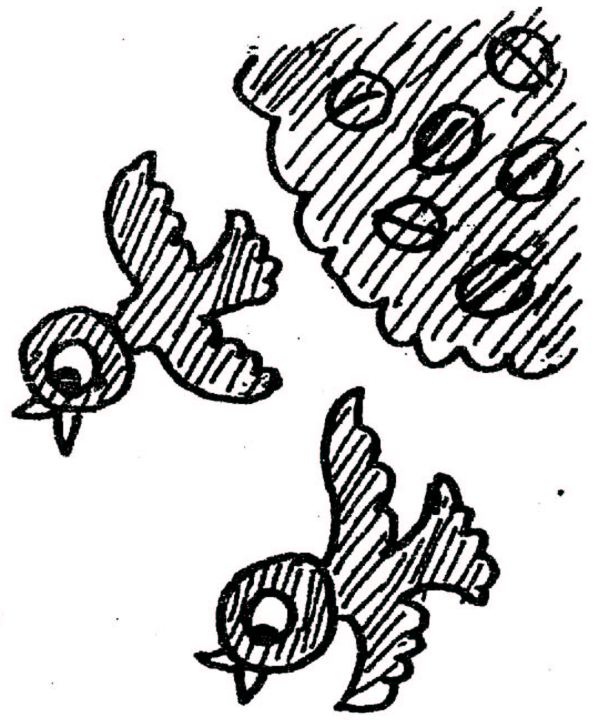


30分

1994.7.7 No. 36

ハンクフテンと

手をつなぐ会



じっくり見て ゆっくり話して

村中の人たちと交流してきます

いま村は希望にあふれてわたしたちを待っている
ようです。「職業訓練・保健・診療」をかねたセンター
の建物は2階の屋根までできたようすです。

中学校の卒業しけんは75%が合格・郡でトップ
の成績をとった生徒もいたようすです。

シヨンダニ・シヨニスタ(村の委員会)ともじっくり
話したい、先生がた、ピレラジドクターともじっくり
話したい、何よりあのかかやくひとみの子とも
たちとあそびたい話したい……。わたしの心も
希望にもえています。

では行ってまいります。(大木松子)

カラムディ村では今…



村では今、「職業訓練兼保健センター」の建設が、村人の労働奉仕と日本からの募金による資金協力で進められています。この土地も村の人達がお金や土地を出しあって1.52エーカー（6,151㎡、1864坪）の広い土地を確保したものです。この広い土地に村の開発を担ういろんな施設を将来集めたいという考えです。

村に小学校が増えたことによって、子供たちの就学率が高まりました。就学前の子供を集めて行う幼児学級にも参加する子供たちが増えてきました。中学校ではドロップアウトする子供たちを減らすための努力が実を結び始めています。夜間学級も、子供はもちろん大人たちの教育に対する関心を高めています。もちろん奨学金をもらって勉強を続けられる子供も増えてきています。

ビレッジドクターを中心とした保健衛生の改善活動も着実に進んでいます。彼等はガンニ病院（郡病院）のノルジャマン医師の指導の下に、研修と村人に対する健康教室を続けています。診療のための手段も検査器具も何もないところで、彼等は活動しています。昨年の、初めての診療活動、顕微鏡を使つての便の寄生虫検査、水質検査は彼等の意欲を大いにかきたてました。

村全体の開発や生活改善を進めていく組織として「シオンダニ・シオンスタ」があります。昨年バングラデシュ政府から正式に現地NGOとして認められました。カラムディ村の人々は今、自分たちで自分たちの生活を村を守り、改善し、子供たちのために少しでも豊かな未来を作り上げようと歩き始めています。

しかし、彼等を取り巻く環境は決して楽なものではなく、衛生環境、経済面、教育面など改善すべき問題は山積しています。生活を守り、子供たちを守り育てて行くためには彼等の自助努力はもちろん、これまで以上の私たちの協力支援が必要に思われます。



現地訪問の日程

今年はシンガポール経由でその日のうちにダッカに入りますので、日程に少し余裕が持てそうです。カラムディ村への道ももっと良くなっていることを期待しています。

- 7月16日(土) シンガポール航空 SQ989 福岡発 12:00 シンガポール16:45
SQ 420 シンガポール発 20:30 ダッカ着 22:20
ダッカ泊 SUNDARBAN HOTEL
- 17日(日) ダッカからカラムディ村へ
18日(月) からカラムディ村で活動
29日(金) カラムディ村からダッカへ
30日(土) ダッカ 再び、SUNDARBAN HOTEL
31日(日) SQ 413 ダッカ発 16:15 シンガポール着 22:05
8月 1日(月) SQ 990 シンガポール発 01:15 福岡着 08:10

今年の現地訪問の主な目的は？

<教育>について

今年の現地訪問では特に以下の点に重点をおきます。

- ①建設中の職業訓練センターの有効活用について話し合います。
- ②幼児学級における子供たちとの交流。
- ③各小学校(第3小学校を含めて)、中学校での交流と話し合い。
- ④夜間学級の視察と今後について話し合います。

<保健・医療>の面では

- ①診療活動。
- ②村人の健康調査。子供たちの便の寄生虫検査を行います。
- ③環境調査。今年も水を中心に環境衛生の調査を行う予定です。
- ④建設中の保健センターの活用について話し合います。村では、安全な分娩ができる施設を欲しがっています。
- ⑤村人を対象とした健康教室の実際も見てきます。

そのほかにも、現地の援助・協力受け入れ組織(現地NGO)の「シヨンダニ・シヨンスタ」とは今後の協力活動、村の開発、生活改善などについて十分な話し合いが必要です。

現地訪問団参加メンバーのご紹介

大木 松子さん (66才)

小さい星伝道所牧師。ご存じのように「バングラデシュと手をつなぐ会」の代表です。今年でカラムディ村訪問は5回目です。昨年の足の骨折にも負けず、今年も団長で行ってきます。

二ノ坂 保喜さん (43才)

川浪病院副院長。医療班の責任者です。国内でも忙しいのですが、村でも毎日の診療、記録の整理、ビレッジドクターとの話し合いなど忙しくなりそうです。今年は特に、今後の保健センターの運営など課題も山積みです。

ラフマン・モクレスールさん (38才)

カラムディ村出身、現在博多高校教員。カラムディ村出身の元九州大学留学生。現在は博多高校で英語の教員をやっています。奥さんのシャヒダさん、息子のシャヒン（西南中学3年生）、娘のシャハナ（2才）の家族がいます。

多方 一成さん (39才)

宮崎産業経営大学経済学部専任講師・都城キャンパス（国際経済学）。

国際協力に大いに関心があり、毎年アジアの各地に出かけて研鑽を積んでいます。昨年「来年はぜひバングラデシュへ」という強い希望で、今年新たに加わりました。なぜか独身です。

真子 俊博さん (44才)

福岡市立こども病院の検査技師。昨年は便の寄生虫検査のアドバイスなどで協力いただきました。今年はいよいよ本人が現地に出向いて協力します。東南アジアの保健医療に関心があり、これまでも各地に出かけて実践活動を行った経験を持っています。健康調査や環境調査、ビレッジドクターの教育など、保健医療部門の強い味方です。

森 昌子さん (24才)

看護婦。青年海外協力隊を志望していますが今まで2回失敗しています。まず、バングラデシュで現場を体験したいと意欲的な若者です。普段からボランティア活動にも参加し、リーダーとして活躍しています。会計と報告書の編集を担当します。

from Akiko Nakamura

7月3日(日)朝でんわで
ペンフレンドの間に合わせ、
そのあとどの辺ですか？
とたしかめの電話。10時
には高校生のなかむら
あきこさんとお父さまが
手紙と林業カンパを持
つてきて下さいました。
あきこさんのお手紙は
ぜんぶ英語です。ラフマン
さんにペンギル訳をつけて
もらって村の中学生に
持って行きますよう。

子どもの絵 持って行きます

福岡市の会幼児生活
団6才組の子どもたち
の絵。これは例年です
が、こことは春日北小
学校の子どもの絵も
持って行きます。去年
現地訪問団に参加した
福島貴子さん(いまは
浦田さん)の受持のクラ
スの生徒たちの絵です。



NGO福岡ネットワーク 次回は8月6日(土)です
 Bangladeshと手をつなぐ会の現地訪問のため、次回のネットワ
ーク定例会は8月に変更となりました。ご注意ください。内容について
は、現在各団体にアンケートなどをとって検討中です。Bangladesh
出発までには決定する予定です。「手をつなぐ会」の現地訪問報告も
できれば入れたいと考えています。お楽しみに。

会場はいつもの通り、福岡学生交流会館
時間もいつもの通り、午後2時～5時です。

大木代表という人物にひかれて「会」員になり、「会」の楽しさから運営委員会までやる図々しさに我ながら呆れています。私は、自分の都合のいいとき、好きな事、自己流のやり方でやる「無責任なボランティア」つまり、私の「パート・タイム・ボランティア」なのですが、仕事としては、話し合いの折りの「5W1H」程度の記録、各種名簿の管理、「会」に関するマスコミ記事の収集と管理、古切手の整理、それと折々の行事の簡単なお手伝い等、何とも気楽な関わり方です。

ところが逆に、この「会」を通して私が学んだことは、数限りがありません。「会」の皆さんの行動力と実践力、利他的な行動の数々。困難に直面しても失われぬ希望。種々の対立や矛盾を乗り越えるおおらかさ。又、細やかな心遣い等、私には無いものばかりで、勇気づけられる事ばかりです。そして、バングラディッシュについて学んだ事。「黄金のベンガル」と「瑞穂の国」の親近性と相違点、イスラム教徒の敬虔さと信念。激しい労働に支えられた素朴な生活。その風土と歴史の緩やかな発展。「瑞穂の国」日本が急激な近代化の中で見失ったものが、「黄金のベンガル」には確かにあるようです。

私の質量共に貧しい海外旅行で知った事実の1つですが、ネパールで美しい自然とひとなつこい人々との交流の裏にあった厳しい現実。それは、我々日本人ツーリストの為だけの食卓、それも10数個のうちの1つを置き忘れたため、一昼夜歩き続けてキャンプ間を往復したシェルパ族の16の若者の事。彼は、将来の登山ガイドになるべく、ツーリストから、英語を学ぶ努力を仕事(荷運び)中続けていました。他に、中国、ソウルでも多くの日本の道徳観を越えた生きる知恵を見た。日本とアジアとの経済格差をどう理解し、克服していくかという課題がここにあります。「会」の活動、他にも多くの善意の苦闘があります。しかし、一方、私達は、日本がアジアでやっている現実を黙認しています。マレーシアのブキメラ村で、公害の垂れ流しをしたこと、インドネシアへの原発の輸出、フィリピンでの開発と汚染など、無駄金や原発や軍隊や企業の進出を黙認している私達を本当にアジアの人々は信じてくれているのでしょうか。私は何をすべきか悶々としながら「会」を続けようとおもっています。こんな「パート・タイム・ボランティア」で参加してみませんか。



☞ 二ノ坂さん「HOT30」に出演 ☜ 曾根 和子 ☜

6月8日(水)、忙しい大木さんの在宅日。時間も11時過ぎ。バングラの件でTELすると、その後で、今から二ノ坂さんがNHKの「HOT30(国際ボランティア)」に出演されるとの事。受話器を置くや否や、あちこちにTELをかけまくるが、あいにく連絡が取れたのは、武藤さん(本人は留守)の御主人でした。そしてその旨を話す。(後日談・・・ビデオを取られたそうです。勿論、大部分は奥さんの為!! それこそHOTな御夫婦ですから) そうそう当の私は、新聞を広げるやNHK総合チャンネルを確認すると、スイッチ・ON! 「NGOネットワーク」のことや、「バングラディッシュと手をつなぐ会」の内容をわかりやすく、それも、わかりやすいことばで話をされていて、なるほど! と一人、うなずきました。

「バングラディッシュと手をつなぐ会」の事もパッチリと報告され、最後に、同募集のノでパッチリと決まり、「いいぞ、いいぞー」と、内心手を叩いていた私です。

最後にこの「HOT30」を見て、私の課題は次の3点です。

- ①わかりやすい言葉で、誰にでもわかりやすく伝える。
- ②色々な報告は、皆に事前に連絡できるように、これから、連絡を取り合いたい。
- ③NGO福岡ネットワークに機会があれば参加したい。

以上でした。☺

行動派オピニオン福岡

ありがたい!!
顔の見える交流

大木 松子(六六)

福岡市・西新は楽しい町。「バングラディッシュと手をつなぐ会」のチャリティ「バザー」を年二回ほど、西新の商店街でさせてもらっている。ちょっと間が空くと「バザーはせんとね」と町の人から催促される。

一方で「商店街の売り上げさうっていきやらんね」などと言いながら、よく協力してくれる。郵便局も顔なじみ。「大木さん、元気ですか」と声がかかる。「顔の見える小さな国際交流」を地域の人が応援してくれ、わが古里はありがたきかな!

(福岡市早良区、幸齢社会をめぐす福岡の会代表)

6/19日
朝刊
西日本新聞

オピニオン版

講演会と出発式 「幸齢社会をめぐす福岡の会」は七月二日午後一時半から、第二回総会を福岡市中央区の福岡市民会館国際会議室で開く。同市の植木とみ子福祉部長が講演。入場無料。

また「バングラディッシュと手をつなぐ会」では、現地訪問団六人が七月十六日に出発。自然が美しいカラムディ村は、私の「第二の古里」。輝く瞳(ひとみ)の子供たちと遊んで話し合っ、て診療所を開いて楽しい交流をします。博多井でも結構気持ちは通じるのです。

旅費カンパをたくさん頂きまして
ありがとうございます ございました

これからの予定

- 8月20日 運営委員会・帰国報告
- 9月10日 NGO 国際交流フォーラム
(青年会議所主催)
- 10月1日 第1回 帰国報告会
- 10月29日 チャリティ・コンサート[♪]

報告会はどんな人数、どんな場所でも
出前いたします。FAXでお早めに!

報告会ご希望のかたお申し込み下さい

8月11日、12日作業日

(運営委員会はどこにたても
ご自由に参加して下さい)



バン格拉デシュと
手をつなぐ会
〒814
福岡市早良区西新5-5-13
TEL・FAX 092(822)5795
代表 大木松子

送金先
郵便振替 01720-2-10442
加入者名
バン格拉デシュと手をつなぐ会